

地区補助金
社会奉仕プロジェクト

別府太陽の家
健常者と障害者との交流

- 12:30～例会
- 12:45～参加者のお迎え・受付
- 13:00～講演「I'm POSSIBLE」
国際パラリンピック委員会教育委員
マセソン美季氏
(長野パラリンピック金メダリスト)
- 14:00～パラスポーツ実技体験
卓球バレー
ゴールボール
車いすバスケット
- 15:00～映画上映
「東京パラリンピック愛と栄光の祭典」



卓球バレーを体験する参加者ら



パラスポーツに挑戦!

障害者スポーツへの理解を深める交流イベントが7日、別府市内籠の社会福祉法人「太陽の家」であった。別府東ロータリークラブ(山下布美代会長)の主催。クラブ会員や別府発達医療センターの子どもら約40人が参加した。1998年の長野パラリンピック金メダリストのマセソン美季さんが講演。差別をなくすためには正しい教育が必要だと訴えた。パラスポーツの実技体験では、車いすバスケットを初めて体験した。た球とバレーを組み合わせた

別府「太陽の家」で交流イベント

卓球バレーを体験。施設の入所者でつくるチームと試合をした。東京パラリンピックを題材にした映画の上映会もあった。

大分合同新聞 2019年12月15日

障害者と健常者
卓球バレー交流

別府・太陽の家



読売新聞 2019年12月15日

障害者と健常者が卓球バレーを通じて交流する大会が14日、別府市の太陽の家コミュニティセンターで開かれた。写真。卓球バレーは1チーム6人で、いすや車いすに座って、板で球を打ち合う。大会は市内の「ほくぶスポーツクラブ」が毎年、開催している。この日は8チーム計約70人が参加。球が浮かぬように気をつけながら打ち合っていた。クラブの河野正勝事務局長(48)は「みんな笑顔で良かった。今後も続けていきたい」と話した。

障がい者スポーツ体験

別府東RCが交流プロジェクト

別府東ロータリークラブ(山下布美代会長)は、「別府・太陽の家健康者と障がい者との交流プロジェクト」を7日午後1時、太陽の家で開催した。クラブメンバーを始め、別府発達医療センターの児童や地域の子どもたちが参加した。

別府東RCは、2008年にクラブ創立30周年記念事業として、光の園にイングリッシュユガーデンを造園したのを皮切りに、児童養護施設で造園と植栽活動を続けてきた。今年、来年、東京五輪・

パラリンピックが開催されるに当たり、パラリンピックの開催に尽力した故・中村裕氏が創設した太陽の家で、スポーツを通して、障がいのある人への理解を深めるきっかけを目的に企画運営した。講演会では、長野パラリンピック金メダリストでアイススレッジスピードレースで金3個、銀1個のメダルを獲得したマセソン美季さんがアイススレッジスピード競技に出会った時、あまりの難しさに逆にやる気が起き、ハンディを乗り越えて、頑張りと、メダリストになった体験談を語った。

実技体験では、卓球バレー、車いすバスケット、ゴールボールを体験。ゴールボールは、目隠しをして、鈴の入ったボールを転がしてゴールにいれ、得点を競う。目隠しをしているので、回りはまったく見えず、鈴の音だけが頼り。体験した人たちは「難しい」と驚いていた。

卓球バレーは、卓球台を使って、ネットを挟んで1チーム6人ずつがイスに座ってピン



太陽の家のチームと卓球バレーで対決

ポン玉を板で打って転がし、3打以内で相手コートに打ち返す競技。太陽の家の卓球バレーチームと対戦し、打ち返す球の速さに何とか打ち返そうと懸命になっていた。車いすバスケットでは、競技用の車いすに体験乗車。普通のバスケットよりもスピードがあるため、激しくぶつかることのある競技。乗り慣れない競技用の車いすに乗って、動いてみるなどして障がい者スポーツを体験した。

また、1964年の角川記録映画「東京パラリンピック愛と栄光の祭典」が上映された。